



つるにようぼう

矢川 澄子 再話 赤羽 末吉 画
福音館書店 1979年 1260円
32ページ 26×25cm

冬の初めのある日、よ平は翼に矢を受けて傷ついた一羽の鶴を助けてあげました。その夜、よ平の家に一人の美しい娘が訪ねてきました。「機を織る姿をのぞかないで下さい」と言われていたのに、よ平はついぞいしてしまいます。娘の本当の姿がわかったとき、それは娘との別れを意味していました。これは、おなじみの昔話「つるの恩返し」を絵本にしたものです。どこか鶴を思わせるような娘の姿、機を織るごとにやつれていく娘、障子の影など、細かな変化が美しい絵と文章で描かれています。最後の4ページに別れの悲しみが表現されており物語の余韻が残ります。



ティッチ

パット・ハッチンス さく・え
いしい ももこ やく
福音館書店 1975年 1155円
32ページ 26×21cm

ティッチは3人兄弟の末っ子。お兄さんとお姉さんは大きな自転車を持っているのに、ティッチが持っているのは、小さな三輪車。お兄さんとお姉さんは凧を持っているのに、ティッチが持っているのは、風車。なにをやってもお兄さんとお姉さんにはかなわないティッチ。しかし、ティッチが持っていた小さな種をまくと……。最後は、お兄さんとお姉さんをびっくりさせることができティッチは自慢げな表情です。

お兄さんやお姉さんに憧れる末っ子の心情が身近なできごとを通して見事に描かれています。シンプルな文と色鮮やかな絵は何度読んでも楽しめます。